

## 事業中評価チェックリスト

番号 27

事業名	土砂災害対策事業 (砂防)	路線・河川 ・地区等名	にっこうがわ 日向川	施行 場所	さかたしますだ 酒田市升田		
評価該当基準	事業中評価実施後5年間を経過した時点で継続中の事業				実施主体	山形県	
事業採択年度	H12	全体事業費(進捗度%)	13.4億円	(99.0%)	事業延長等	床固工3基	
目標年度	R07	内工事費	8.5億円	(100%)			
[当初目標年度]	[H21]	内用地・補償費	0.2億円	(100%)	供用延長等	床固工3基	
(過年度評価時目標)	(R04)	内測試費等	4.7億円				
<b>事業の目的(地域性・特質性)</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>日向川流域は鳥海山の火山噴出物が堆積し、崩壊しやすい脆弱な地質であり、上流域については、荒廃が進んでおり、河床にも不安定な土砂が堆積している。</li> <li>豪雨の発生に伴い大規模な土砂災害が想定されることから、土砂流出を防止するため床固工3基を設置し、河床の安定と河岸浸食の防止を図り、周辺下流域を土砂災害から保全するものである。</li> </ul>							
<b>事業概要(主要工事内容)</b>							
床固工5基							
<b>事業の実施状況</b>							
床固工が3基完了しており、工事の進捗率は、99.0%である。							
<b>上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード)</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>第4次県総合発展計画 → 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり</li> <li>やまがた県土未来図推進指針 → 治水・土砂災害対策の推進[1-1]</li> <li>やまがた水害・土砂災害対策中期計画 → 確実に効果的な砂防関係施設の整備[5.2 土砂災害対策編 取組2]</li> </ul>							
<b>今後の事業の見通し</b>							
令和7年度の概成に向けて関係機関と協議を進める。							
<b>事業を巡る社会経済情勢等の変化</b>							
① 国、県の政策や計画の転換等 暮らしの安全・安心に直結する事業であり、政策や計画の転換はなし。							
② 財政状況の変化 令和2年度の豪雨など、大規模な災害が発生していることから、事業箇所数が増加(97箇所(R1)→124箇所(R4))し、1箇所当たりの事業費が減少している。							
③ 事業実施地域の周辺環境の変化 近年、局所的な集中豪雨が多発しており、土砂災害対策の必要性が高まっている。							
④ 地元の協力体制の変化 事業に対する反対者はなく、協力体制は良好である。							
⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 保全対象施設に大幅な変化はない。							
⑥ 代替方策による必要性の変化 集中豪雨に伴う土石流の抑制や渓床・渓岸の浸食を防止する流出土砂量の調節を図るには床固工による溪流保全工が最も効果的かつ合理的であるが、クマタカの営巣地に近い床固工2基の位置変更のため、検討を行った結果、砂防林等の抑止効果が見込まれ、現況の床固工3基で計画整備率を満足することが確認できた。							
<b>事業の投資効果</b> (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例							
投資効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人家 9459 戸の家屋、家庭用品被害及び人的被害を軽減する。</li> <li>● 主要地方道 1,400m・市道 3100m・橋梁 5 橋、保育園等の施設被害を軽減する。</li> <li>● 農地 800a の農作物被害を軽減する。</li> <li>○ 土砂災害に対する不安感を解消し、住民に安心感を与える。</li> </ul>						
社会的割引率	B/C	B/Cの代表的 な分析指標	・総便益の現在価値 (B)				742.9億円
4%	22.6		・総費用(事業費+維持管理費)				32.9億円
2%(参考値)	29.9		の現在価値(C)				
1%(参考値)	35.7						
<b>●コスト縮減・○代替案等の可能性</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資材に現地発生材(転石)を利用し、また効率的な施工手順を検討するなどコスト縮減に取り組んでいる。</li> <li>○ 土石流の抑制や渓床・渓岸の浸食を防止する流出土砂量の調節を図るには床固工による溪流保全工が最も効果的かつ合理的であるため、代替方策は考えられない。</li> </ul>							
<b>当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄)</b>							
猛禽類の調査について、関係機関との協議に不測の日数を要したため							
評価区分	継続 C	評価の理由	計画より3年遅れとなるが、事業の重要性、地域の要望・協力等を総合的に検討した結果、継続が妥当と判断した。				